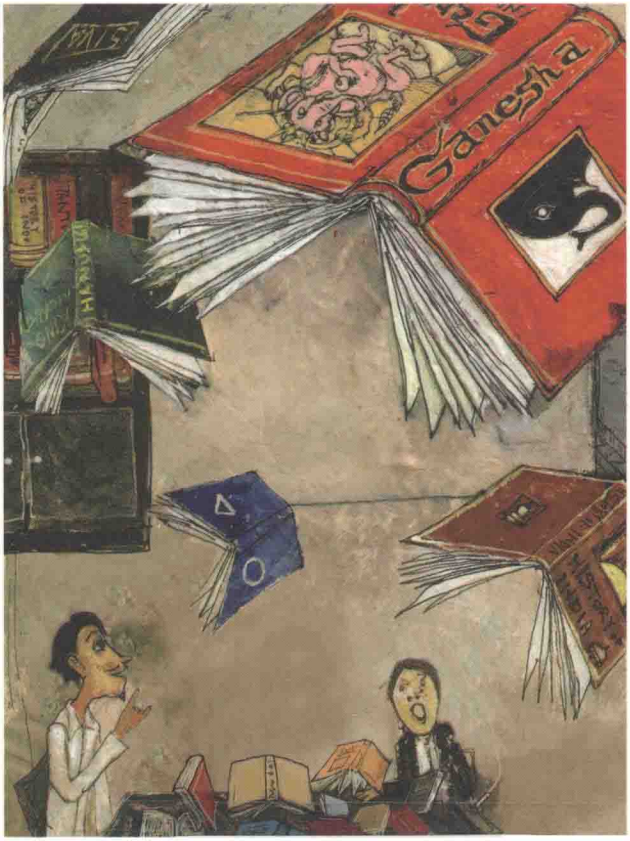
Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル 3 vol.2 8



魔術（まじゅつ）

原作＝芥川 龍[illegible]

簡約＝きどえいこ

挿絵＝尾関 健治

監修＝NPO法人日本語多読研究会

ask

にほんご よむよむ文庫 レベル３

魔術（まじゅつ）

原作（げんさく）：芥川 龍之介（あくたがわ りゅうのすけ）

簡約（かんやく）：きどえいこ
挿絵（さしえ）：尾関 健治（おぜき けんじ）
監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

＜監修者紹介＞

NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002 年 1 月に発足しました。2006 年 9 月に NPO 法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー（にほんご よむよむ文庫）
［レベル 3］vol.2
魔術

2007 年 7 月 12 日　初版発行

原作：芥川 龍之介

簡約：きどえいこ（日本語多読研究会会員）
作画：尾関 健治
監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：大山 尚雄／小金澤 篤子
録音・編集：スタジオ グラッド
デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平
発　行：株式会社アスク　出版事業部
〒 162-8558　東京都新宿区下宮比町 2-6
TEL.03-3267-6866　http://www.ask-digital.co.jp
印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。
乱丁・落丁はお取り替えいたします。
©NPO法人日本語多読研究会 2007
Printed in Japan　ISBN978-4-87217-643-8

にほんご よむよむ文庫 レベル３

魔術（まじゅつ）

原作（げんさく）：芥川 龍之介（あくたがわ りゅうのすけ）

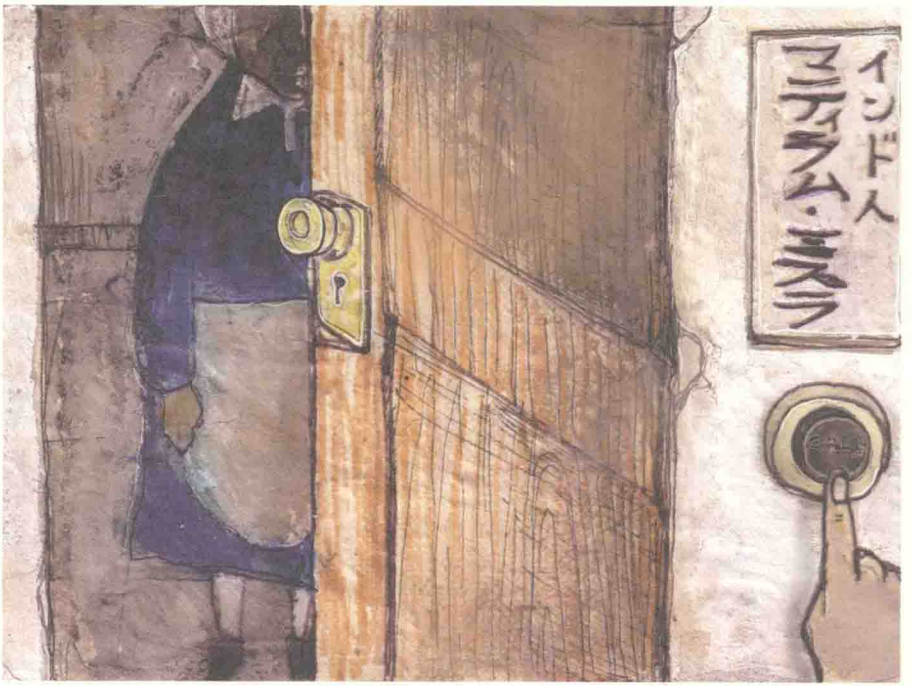
簡約（かんやく）：きどえいこ
挿絵（さしえ）：尾関 健治（おぜき けんじ）
監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

ある秋の夜のことです。

その日は、雨が降っていました。私は人力車に乗って、狭くて暗い道を通って、やっと小さな家の前に着きました。外国の建物のような家でした。家の周りには木がたくさんありました。玄関には表札がかかっています。よく見ると「インド人マティラム・ミスラ」と書いてあります。

ミスラ君はインドで生まれました。まだ若いですが、有名な魔術師です。私は一カ月ぐらい前に、ある友達にミスラ君を紹介されました。仕事や国のことを話したことはありましたが、ミスラ君が魔術を使うのは、まだ見たことがありませんでした。ですから、「今度、魔術を見せてください」と、何日か前に手紙を出しました。そして、今夜、家まで来たのです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



私は、玄関の呼び鈴を鳴らしました。すると、すぐにドアが開いて、背が低い日本人のおばあさんが出てきました。このおばあさんは、ミスラ君の食事を作ったり、家の掃除をしたりしています。

「ミスラ君はいますか」

「はい。さっきから、あなたを待っていますよ」

おばあさんは、にこにこ笑いながら言いました。そして、ミスラ君の部屋に私を案内しました。

部屋に入ると、ミスラ君がいました。ミスラ君は、色が黒くて、目が大きくて、口の周りにひげがあります。

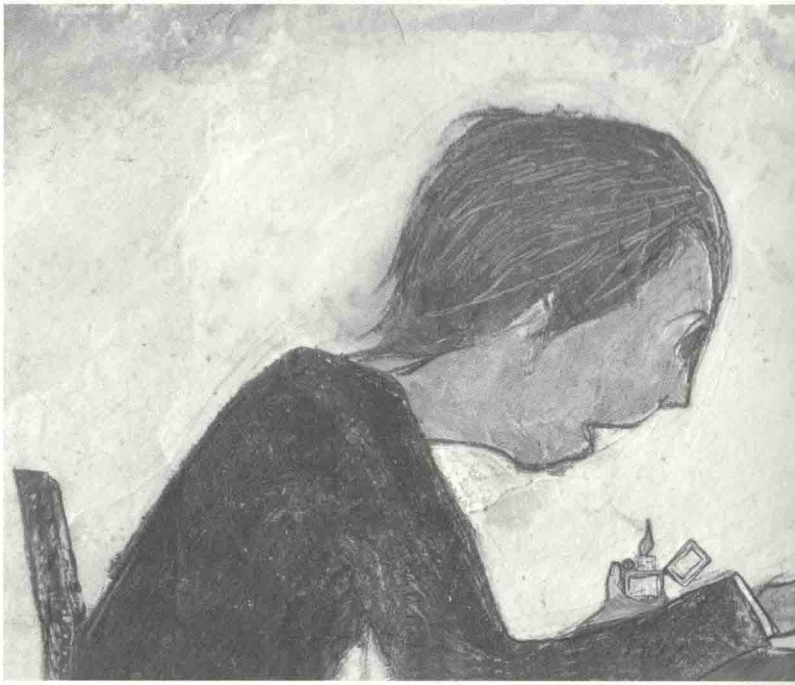
「雨が降っていて大変だったでしょう」

と、ミスラ君が元気に言いました。

「いいえ、あなたの魔術を見ることができるなら、少しも大変じゃありませんよ」

私は椅子に座ってから、少し暗い部屋の中を見ました。真ん中にテーブルが一つ、窓の前に机が一つ、その横に本棚が一つあります。他には、私たちが座っている椅子があるだけです。部屋の中にある物は、どれもとても古い物でした。赤い花が描かれた布がテーブルに掛かっていましたが、その布も、とても古い物でした。

私とミスラ君は、しばらく外の雨の音を聞いていました。とても寂しい音です。そこへ、おばあさんがインドのお茶を運んできました。ミスラ君は、たばこ



の箱を開けて、
「どうですか、一本」
と言いました。
「ありがとう」
私は、たばこを一本取って、火をつけながら言いました。
「これからあなたが見せてくれる魔術は、難しいものですか」
ミスラ君も、たばこに火をつけて吸いました。いい匂いがします。
「いいえ、難しくないですよ。私の魔術は、使おうと思えば、あなたにも使うことができますよ。見てください」

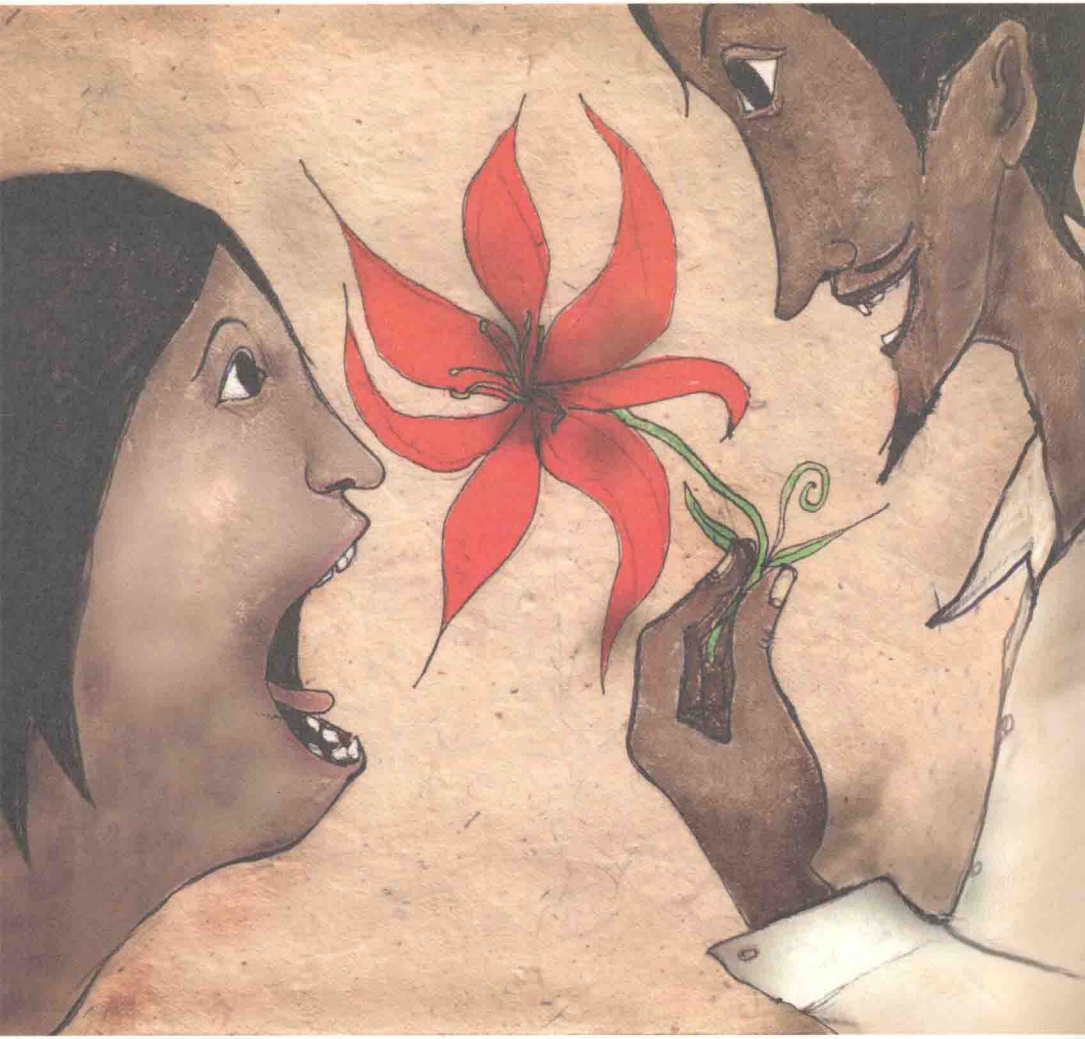
ミスラ君は手を上げて、私の目の前で、三回、字のようなものを書きました。次に、その手をテーブルの赤い花の絵の上に下ろしました。それから、その手を上げました。すると、その手には赤い花がありました。私はびっくりしました。それは、テーブルの布に描いてあった花です。ミスラ君がその花を私の顔の前へ持ってくると、甘い花の匂いがしました。

「おお、すごい！　どうしてそんなことができるんですか」

と私が言うと、ミスラ君は、にこにこ笑ったまま、今度はその花をテーブルの上に落としました。すると、花は布の絵に変わりました。もう手で持つことはできなくなりました。

「どうですか。簡単でしょう。あなたが見たければ、もう一つ魔術を見せますよ」

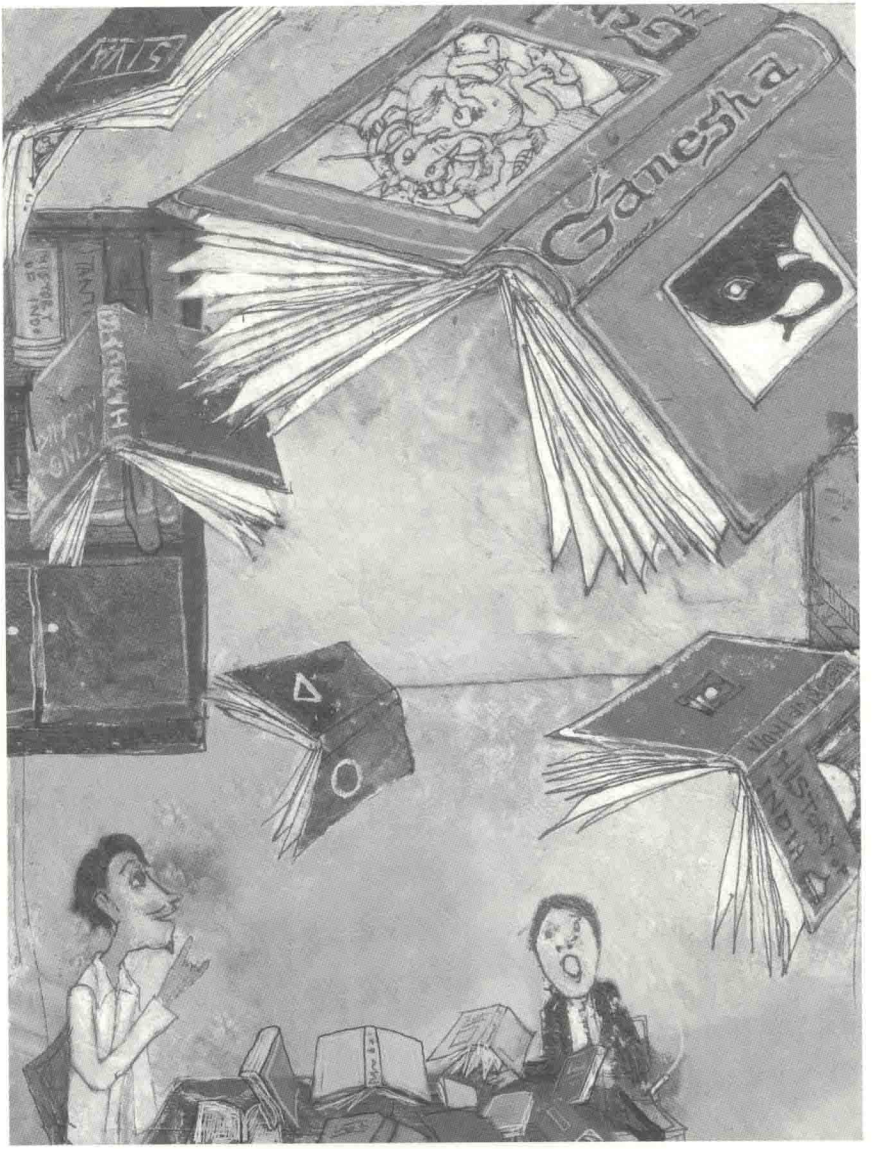
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



ミスラ君は椅子に座ったまま、後ろの本棚を見ました。そして、手を上げて、また三回、字のようなものを書きました。すると、今度は、本棚に並んでいた本が、一冊ずつテーブルの上まで飛んできました。その飛び方は鳥のようでした。私はびっくりして口を開けたまま、ずっと見ていました。少し暗い部屋の中を、たくさんの本があっちこっちに飛んでいましたが、しばらくするとテーブルの上に下りてきました。初めに一冊。次に、その上に一冊。それから、その上にもう一冊。そして、テーブルの上に本がたくさん下りてきて、山の形を作っていきました。全部テーブルの上に下りたと思ったら、すぐに一番初めに来た本から、また一冊ずつ本棚へ飛んで帰っていきます。すると、飛んでいるたくさんの本の中から一冊の薄い本が、私のほうへ下りてきました。見ると、それは私の本でした。一週間ぐらい前にミスラ君に貸した、外国の本でした。

「長い間、本をありがとう」

ミスラ君は私に言いました。そのときには、もう他の本は全部本棚に入っていました。私は、すぐには何も言うことができませんでした。


Gamesha
HISTORY OF INDIA

しばらくして、「私の魔術は、使おうと思えば、あなたにも使うことができるのです」というミスラ君の言葉を思い出しました。私は、ミスラ君に聞きました。

「前からあなたの魔術のことは聞いていましたが、今、目の前であなたの魔術を見て、とてもびっくりしました。こんなにすごいものだとは思いませんでした。私にも使うことができるというのは本当ですか」

「はい。もちろん、本当です。だれにでも簡単にできます。しかし……」

ミスラ君はそう言いながら、私の目を見ました。そして、真面目な顔で言いました。

「しかし、お金持ちになるために魔術を使うことはできません。魔術を勉強しようと思ったら、お金が欲しいという気持ちは捨てなければなりません。あなたにそれができますか」

「できます。魔術を教えてもらうことができれば」

ミスラ君は少し考えていましたが、

「では、教えてあげましょう。しかし、簡単にできると言っても、勉強するのには時間

がかかりますから、今夜は私の家に泊まってください」と言いました。

「どうもありがとうございます、ありがとうございます」

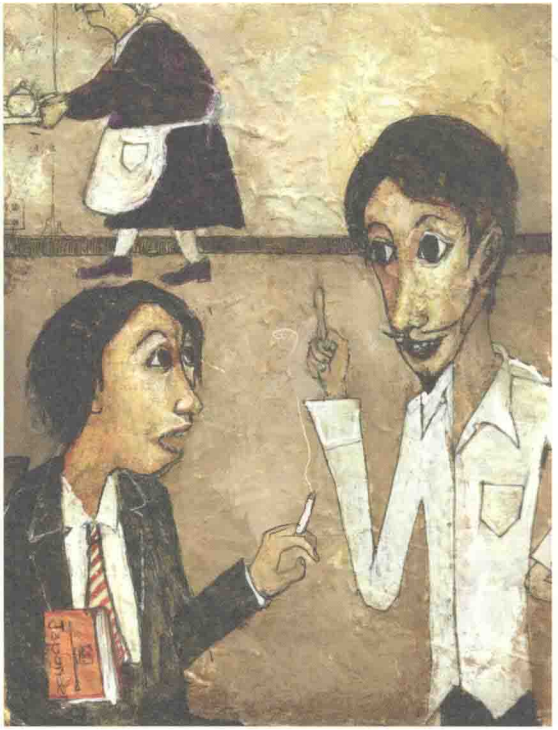
私はうれしくて、ミスラ君に何度も言いました。

ミスラ君は静かに椅子から立ち上がると、

「おばあさん、おばあさん。今夜はお客様が泊まりますから、ベッドの準備をしてください」

と言いました。

私はうれしくて、吸っていたたばこを手に持ったまま、ミスラ君の顔をしばらく見上げていました。



私がミスラ君に魔術を教えてもらってから、一カ月ぐらい経ちました。
ある日、私は友達五、六人と銀座へ行きました。雨が降る夜でした。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com